

がんば！！

NO, 8

日本赤十字社新潟県支部

事業推進課事業係

2001

A Happy New Century !!

いんふおめーしょん

1月

27, 28日・2月3, 4日

救急法救急員養成講習会 (柏崎市総合福祉センター)

28日・2月3, 18, 24日

救急法救急員養成講習会 (糸魚川市ふれあいセンター)

27, 28日・2月3, 4日

水上安全法救助員養成講習会(長岡悠久山プール)

2月



1日 新潟県赤十字奉仕団委員会 (日赤県支部)

♪平成13年度の県内赤十字奉仕団活動
等について

▶ 13:30~15:30



2日 西蒲原郡地区奉仕団合同研修会 (西川町)

♪災害時の奉仕団活動について・身近なボラ
ンティア活動等

▶ 13:30~16:00

3, 4, 17, 18日

救急法救急員養成講習会 (日赤県支部)

♪心臓マッサージ、人工呼吸、応急手当等

▶ 9:00~17:00

13, 14, 20, 21日

家庭看護法介助員養成講習会 (日赤県支部)

16日 奉仕団委員長・事務担当者会議 <下越地区・日赤県支部>

▶ 13:30~15:30

18日 雪上安全法一般講習会(シャトー塩沢スキー場)

23日 奉仕団委員長・事務担当者会議 <上越地区・高陽荘>

▶ 13:30~15:30

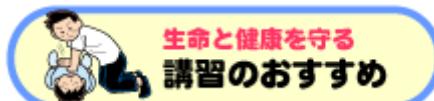
24, 25日・3月10, 11日

救急法救急員養成講習会(長岡中央公民館)

28日 奉仕団委員長・事務担当者会議 <中越地区・アトリウム長岡>
↳ 13:30~15:30

3月

- 2日 奉仕団委員長・事務担当者会議
<佐渡地区・アミューズメント佐渡>
↳ 13:30~15:30
- 10日 新潟県赤十字安全奉仕団代議員会 (日赤県支部)
- 1, 2, 8, 9日 家庭看護法介助員養成講習会 (日赤県支部)
↳ 高校生・大学生対象
- 27, 28, 29, 30日 家庭看護法介助員養成講習会 (日赤県支部)
↳ 高校生・大学生対象
- 19, 21, 26, 28日 家庭看護法介助員養成講習会 (上越総合福祉センター)
↳ 高校生・大学生対象
- 21, 22, 23, 26日 救急法救急員養成講習会 (日赤県支部)
↳ 高校生対象



救急法・家庭看護法・水上安全法・幼児安全法の講習会については、
全て掲載できませんでしたので、下記にお問い合わせください。

日本赤十字社新潟県支部事業推進課普及係

TEL 025-231-3121

今年度の提出書類について

平成11年度事業実施報告・平成12年度事業実施計画・奉仕団現況報告書・振込み口座依頼書の提出期限は、5月末日となっています。みなさんの活動等を把握してより良い奉仕団作りを考えていくためにも大切な書類です。まだ提出いただいていない奉仕団のみなさん、至急ご提出ください。お願いします。

新春特別超まじめ企画

～21世紀の奉仕団について考える～

昨年11月10日～11日にサンローラ川口で行われた、地域・特殊奉仕団対象リーダーシップ研修会（上、中越地区対象）のグループワークで『21世紀の奉仕団について』活発な討論をしていただきました。

＜参加奉仕団員名＞柏崎市（関矢道子、藤巻節子）直江津（須藤和子）高田（藤沢奈津子）栃尾市（葛綿咲子）糸魚川市（里麻洋子）新発田市（池田ミサホ、長谷川清）三島町（原田郁子、中村和代）与板町（田村節子）能生町（清水美佐子）妙高村（望月三四四）山古志村（小池 孝）塩沢町（小宮山節子）塩沢町男の介護（田村 亮、遠田 勇）

①まず、どんな奉仕団が理想でしょうか？地域の様々な奉仕団と連携を取ったボランティア活動は可能でしょうか？

- どんな事でも積極的且つ誇りを持って奉仕活動する。
(有機的な関係を持つ)
- 非常時の時だけでなく、奉仕団活動がはっきりしていて、定期的・継続的であること。(平素の活動がしっかりしていれば非常時の活動もスムーズになる)
- 若い団員の多い地域では活動に参加しにくい面がある反面、働き盛りを過ぎた人達の多い奉仕団は進んで取り組む。(組織化されている地域では、活動や訓練を通じて十分連携が可能である)
- 活動には経済的な裏付けが必要。(無償の奉仕をしていく中で、奉仕活動には出れないが他の方法で奉仕をすることも可能)
- 各市町村によって奉仕団といつても多種多様の組織や方法があり、その特色を知らしめる活動をアピールする必要がある。
- 実際に役立つ知識と技術を高めるための研修を重ねながら、他との交流を深めていく。
- 無理のない長続きできる活動であること。
- 気楽に出来ることから始める。
- 話し合いながら、連携をしていくのは可能です。

＜見 解＞

奉仕団の理想像を考える上で、目的を掲げて活動に的を絞る事が必要である。あれもこれもではなくて、私たち



の奉仕団のボランティア活動はこれなんだという基盤を構築した上で、自分たちのできることを持ち寄って他の奉仕団と連携を進めた活動にあたる事が、赤十字奉仕団の活性化に繋がることはもちろんのこと、地域住民との交流、地域の活性化に繋がる。

②どんなリーダーなら、団がうまくいくでしょうか？また、どんなリーダーだと団が停滞してしまうでしょうか？上位3位を決めてください。

こんなリーダーは素晴らしい

(^o^)第1位　・誠実、信頼、責任、決断力のある人

- ・信頼される人間性豊かな人
- ・目標を持ち、実行努力する人

(^o^)第2位　・実行力、何でも言える人

- ・メンバーひとりひとりの能力を引き出し
てくれる力を持った人

・団員に押し付けない方法で知識を与える人

(^o^)第3位　・調和の取れる人

- ・タイミングよく判断できる人
- ・団員の意見を良く聞きアドバイスできる人

こんなリーダーにはついていけない

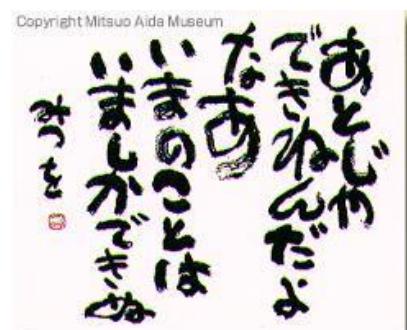
(>_<)第1位　・自己中心的、時間を守らない人・自己主張の強い人・優柔不断な人

(>_<)第2位　・不誠実で実行力が無い人・公平でない人・自分本位な人

(>_<)第3位　・団員の意見を無視する人・判断力の欠ける人・地位や肩書きを欲しがる人

＜見　解＞

リーダーの存在については、最近の言葉で言うとカリスマ性をいう言葉が頭に浮かぶ。世間でカリスマと呼ばれている人々は必ず行動が伴っている。まず、自分自身が行動し、実行してみる。そこに団員（友人、お客様）がついて来る。これがリーダーであり、行動できなくなつた時がリーダーでなくなる時であると考える。県内の奉仕団で活動が活発な所には必ずカリスマ性を持ったリーダーが存在している。全体的にいえることは、やはりそのリーダー達は自己中心的ではなく、常に全体を見渡す余裕（器が広い？）がある。だからみんなが納得してついて来る。



③『赤十字奉仕団』という名前はどう思いますか？

- ボランティアと言えば通りがいいし、分かり易いが使いすぎる
「奉仕」というのは、全ての人の幸せのために自分が奉仕する
を表す言葉として「奉仕団」は捨て難い
- 21世紀に向けてこのへんで名前を検討しても良い。
- 奉仕団は古臭いイメージがある。奉仕=戦争を思い出す。
- 若い人がついて来ない。



＜見 解＞

21世紀に向けて「奉仕団」では、国際的に見ても少なからずとも疑問がある。
若年層からも「奉仕団」と言う名前について意見を受ける時がある。ただ、「奉
仕団」と言う名前に愛着を持っていただいている方々も多いので、「奉仕団」と
「ボランティア」を併用しながら徐々に変えていくのが良い方法なのかあ・・
と考えている。

④奉仕団役員の年齢制限はあった方が良いでしょうか？



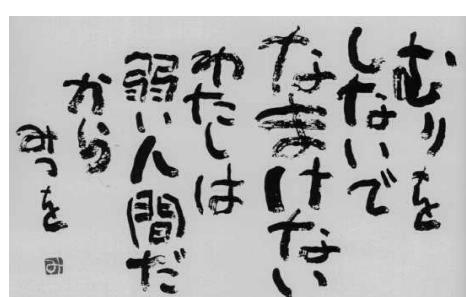
- 年齢制限は定めなくても良い。人それぞれで全く年齢を感じさせず、意欲的
に取り組む人がいるので、単に年齢だけでは切れない。年齢制限よりも三役
を固定しないことが大切で、定期的に交代すべきである。
- 年齢制限は無くて良い。
- 名前だけの役員であると問題がある。実際に活動できるなら無理に年齢制限
を持たなくともよい。

＜見 解＞

活動に年齢制限を持つということではなくて、いつまでも肩書きだけの役員になってしま
うと団が停滞してしまうということ。いろいろな年齢層の役員で構成することで、様々意
見が生まれ、その新しい風が組織を活性化する。

⑤21世紀に奉仕団の存在を社会にアピールしていくためには、どんな赤十字らしいボラン ティア活動が必要でしょうか？

- 赤十字奉仕団という奉仕団の意図を明らかにして、
奉仕の精神・意味を理解してもらうことが大切。
- いままでは災害時の活動が主体だったが、これからは地域福祉活動に関する 奉仕にも目を向ける活
動をしていく。(介護ボランティアや予防介護のため
の健康スポーツ等)



- 赤十字そのものを理解してもらう事が最優先である。その上で日本は平和で
あるという幸せをかみ締めながら、介護ボランティアに力を注ぐ。

＜見　　解＞

これからの中高齢化社会に向けて、赤十字奉仕団の役割はとても大きなものになってくるのは目に見えている。ただ地域にもよるが、赤十字奉仕団の存在性はあまりにも薄く、日の目を浴びていないのが現状である。支部として直接活動の手助けをするのは無理があることなので、資材や資金の援助等、間接的支援をしたり、より赤十字奉仕団を世間にアピールして奉仕団の重要性を理解してもらえるように推進する。



2001年はボランティア国際年です!!

ボランティア国際年の4つの目的

- ・ボランティアについて、みんなに分かってもらう。
- ・ボランティアについてのネットワークを作る。
- ・ボランティアに参加しやすいように、社会の仕組を整える。
- ・ボランティア活動をもっと盛んにする。

日本赤十字社新潟県支部では、ボランティア国際年を記念したイベントを企画して、積極的に応援します。

赤十字奉仕団活動紹介

～水原町赤十字奉仕団の巻～

水原の瓢湖には冬になると何千羽もの白鳥が飛来しますが、その白鳥はパンを好んで食べます。パンは、そのままでなく食べ易いように細く切らねばなりません。

私達、水原町赤十字奉仕団員もパン切りの奉仕をさせていただいております。

この作業は、年間(私たちは、輪番で50回位、九時～十一時半頃)を通じて行われ、暖かい時期にはパンを切った後、日光で乾燥し多量に必要となる冬期間に備えられます。団員は、包丁を扱うのはお手のもの。パンの耳やコッペパン・食パンの時は『今日は切り易いね』とか、「外側のよく焼けた所は固いから力を入れてね」とか、家庭料理・畠作業のこと等々話をしながら和気藹々と作業を進めます。

作業台の上に小山のように積まれたパンのうちジャムやバターのついたものは取り除き次々と切り、切ったものはダンボールに移し、また台の上に山と積み、どんどん処理していくことはとても充実感があります。これからも続けたいと思っております。

水原町赤十字奉仕団 委員長 萩野 玲子



白鳥の飛来する瓢湖では、水原町赤十字奉仕団のみなさんが白鳥の餌を作るボランティア活動をしています。誰もが一回は行ったことのある瓢湖もこういった陰の方々の善意によって成り立っているんですね。まだ行ったことのない方は、ぜひ一度行ってみてください！！

上越市で奉仕団を熱烈!!

防災とボランティアの日(1月17日)・大規模災害救護訓練実施

突然の停電、暗闇の中に聞こえてくる大声。地震だー、助けてくれー。1月17日午後7時、上越市の市民プラザがパニックに襲われました。

この日は国が定めた「防災とボランティアの日」。そして2001年は国連の「国際ボランティア年」にあたることから、上越市、災害支援ネットワーク上越、上越市防災委員会が主催して、記念式典と大規模災害を想定した救護訓練が実施されました。

災害支援ネットワーク上越は、県内に初めて結成された特定非営利活動法人で、18歳～70歳までの住民100名余りが登録しています。また、上越市防災委員会は、上越市の町内会がつくる自主防災組織の連合体です。とはいっても災害救護訓練の主役はもちろん赤十字奉仕団。みんなが力を出し合って訓練を成功させました。

上越市での訓練は患者役、家族役、救護者役に役割を分担し、災害時のパニックを再現することで、応急手当の基本である観察の重要性、大規模災害に対する認識を高め、パニックに慣れるという目的が達成されました。訓練の様子は1月18日、20日の上越タイムスにカラー写真で紹介されました。

ここで、各奉仕団の役割を紹介します。

高田地区赤十字奉仕団(保坂いよ子委員長)

直江津地区赤十字奉仕団(滝沢サヨ子委員長)

担当は炊き出し。1回に10キロが炊飯できるガス釜での給食や大釜いっぱいの豚汁をあつという間に作り上げ、さすがは赤十字と周囲の注目を集めました。



安全奉仕団上越市分団

(保坂裕子委員長)

訓練に参加された地元集落の土橋と新光町の住民に蘇生法の講習指導。救急法指導員が一人一人に心臓マッサージの指導や人工呼吸の指導を行いました。



赤十字防災ボランティア
(サブリーダーのみなさん
たち)

地震発生間もなく現地に駆けつけ、投光器の設置、応急救護所の設置、医療スタッフの搬送など、体力勝負の訓練でした。

「落ち着いて下さい。応急手当を実施します」「安心して下さい、私たちは赤十字のボランティアです」と

大声で駆け回っていたのが印象的でした。

上越地域災害救護赤十字奉仕団(佐藤文雄委員長)

全体のコーディネータを行いました。患者役、家族役を務めたり、住民に「救急車を止めて、早く救助してもらってかまわないから。そのかわり救急隊員の説明で納得すれば道をあけてやって」と演技を依頼、ほんとに救急車を止めてしまい「先にうちの人助けて」と、これにはいくら事前打ち合わせがあったにせよ救急隊員もびっくり、しかし隊員からはよい訓練になったと講評をいただきました。

新潟県赤十字情報通信奉仕団(栗崎利幸委員長)

訓練の通信を担当しました。全体の流れや被災状況の把握など無線ならではの訓練を行いました。

このほかこの訓練を支えて下さった団体です

上越医師会

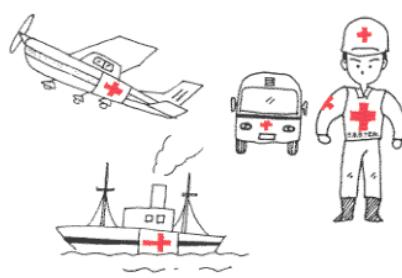
救護所における救急救命処置

上越消防

救急車、支援車の派遣、応急手当の指導

日本赤十字社新潟県支部

簡易ベッド 6台貸し出し、写真パネル展示、広報媒体提供(200個)



情報提供:赤十字防災ボランティアリーダー 梅沢 圓了

編集後記

ついに21世紀が幕を開けました。あらゆる物が機械化され、どんどんと便利な時代になっていますが、赤十字奉仕団はそんな便利な時代の隙間を埋める存在なのかな？？って思います。お金を出せば何でも手に入る分けじゃなくて、コンピューターを使えば何でもできるわけじゃなくて、人と人が顔を合わせて、話をして、ようやく手に入るものっていうのが必ずあるわけで…。

お互いのことを思いやる気持ちとか、人に何かをしてあげられる喜びとか、人から何かをしてもらった時の感謝の気持ちとか、便利な時代になればなるほど忘がちな部分を赤十字奉仕団で埋めていけたらなあ～と願っています。

21世紀も、みなさんが活動しやすい環境作りと魅力ある赤十字奉仕団の発展にがんばってまいりますので、ご協力をお願いします。



事業係 小原 大介

情報をおまちしています

「がんば！！」は、県内赤十字奉仕団の情報を共有する場です。奉仕団の活動紹介、新聞・広報誌などで掲載された記事ほか地元の美味しいお店、観光スポットなど赤十字に関係あるものないもの何でも結構ですので、できれば写真を添えて当支部まで原稿をお寄せください。また、取材にもまいりますのでお電話もお待ちしています♪

※情報を提供してくれた方には、もれなく粗品をお送りさせていただきます。

日本赤十字社新潟県支部 事業推進課 事業係

〒951-8127

新潟市関屋下川原町1-3-12 Tel 025-231-3121

